

平成 17 年

山梨県産業連関表

山 梨 県

は じ め に

このたび、平成17年山梨県産業連関表を取りまとめましたので公表します。

この産業連関表は、平成17年中に県内で行われた財貨・サービスの産業相互間等の取引の状況を一覧表にまとめたもので、平成17年当時の本県における産業構造及び産業相互間の依存関係等を総合的に把握することができます。

さらに、本表から導き出される各種係数を用いて、地域経済計画の策定や波及効果の予測・測定などにも利用することが可能です。

今回の平成17年表で 7 回目の作成となりますが、行政のみならず産業界や大学、研究機関など各方面で、本表を有効に御活用いただければ幸いです。

おわりに、本表の作成に当たり、貴重な資料の提供並びに御指導をいただきました総務省政策統括官付統計審査官室、関東甲信静ブロックの各推計担当者など関係各位に対し、心からお礼を申し上げます。

平成22年5月

山梨県 企画県民部 統計調査課

利 用 さ れ る 方 へ

1 本報告書で使用されている記号の定義は次のとおりです。

X : 生産額 (列ベクトル)

Y : 最終需要額 (列ベクトル)

F : 県内最終需要額 (列ベクトル)

E : 移輸出額 (列ベクトル)

(x_{ij}) : 内生部門取引額 (行列)

A : 投入係数 $A = (a_{ij}) = \frac{x_{ij}}{X_j}$

A^d : 県産品投入係数 $A^d = (a_{ij}^d)$

A^m : 移輸入品投入係数 $A^m = (a_{ij}^m)$

V : 粗付加価値額 (行ベクトル)

\hat{V} : 粗付加価値率 (対角行列)

M : 移輸入額 (列ベクトル)

\hat{M} : 県内需要に対する移輸入係数 (対角行列)

Γ : 県産品自給率の対角行列 $\Gamma = I - \hat{M}$

L : 就業者数 (列ベクトル)

\hat{L} : 就業者係数 (対角行列)

I : 単位行列

B : $[I - (I - \hat{M}) A]^{-1}$ 型逆行列係数 $B = (b_{ij})$

i : 単位行ベクトル

j : 単位列ベクトル

$\hat{\quad}$: ベクトルを対角行列にしたことを示す記号

$^{-1}$: ベクトルを逆行列にしたことを示す記号

Δ 又は「-」: 負数

2 数値の単位未満は、四捨五入してありますので、内訳の合計が総計と一致しない場合があります。また率などの係数は千円単位で計算してあります。

3 平成12年表と平成17年表では部門の概念が異なるものもありますので、時系列では単純に比較できない場合があります。

4 山梨県のホームページ「やまなしの統計」にて、各計数表を提供しておりますので、ご利用下さい。

http://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/

5 この報告書に関するお問い合わせは、次へお願いします。

山梨県企画県民部統計調査課分析普及担当

TEL 055-223-1344 FAX 055-223-1347

目 次

〔第1編〕解説編

| | | |
|------------|--------------------------------|----|
| 第1章 | 平成17年山梨県産業連関表からみた県経済の実態 | |
| 第1節 | 山梨県経済の構造 | 1 |
| 1 | 山梨県経済の概要 | 1 |
| 2 | 産業別県内生産額 | 3 |
| 3 | 投入構造 | 4 |
| 4 | 需要構造 | 7 |
| 5 | 県際構造 | 12 |
| 第2節 | 本県経済の生産波及構造 | 16 |
| 1 | 逆行列係数 | 16 |
| 2 | 最終需要と生産 | 20 |
| 3 | 最終需要と粗付加価値 | 24 |
| 4 | 最終需要と移輸入 | 27 |
| 第3節 | 雇用表と最終需要 | 30 |
| 1 | 雇用表の概要 | 30 |
| 2 | 雇用表の見方 | 30 |
| 3 | 県内従業者の状況 | 31 |
| 4 | 個別従業係数と個別雇用係数 | 31 |
| 5 | 最終需要と従業者誘発、雇用者誘発 | 32 |
| 第4節 | 総合係数について | 35 |
| 第2章 | 産業連関分析の原理 | |
| 第1節 | 産業連関表の意味 | 37 |
| 1 | 産業連関表とは | 37 |
| 2 | 産業連関表の構造と見方 | 37 |
| 3 | 産業連関表と県民経済計算 | 38 |
| 第2節 | 産業連関分析の原理 | 38 |
| 1 | 投入係数とは何か | 39 |
| 2 | 逆行列係数とは何か | 39 |
| 3 | 均衡産出高モデルとその種類 | 40 |
| 4 | 産業の機能分析 | 42 |
| 第3章 | 平成17年山梨県産業連関表作成の概要 | |
| 第1節 | 基本方針 | 45 |
| 1 | 作成の基本方針 | 45 |
| 2 | 特殊な取扱いをする部門 | 48 |
| 3 | 平成17年表の特徴 | 49 |
| 第2節 | 作成作業経過 | 49 |
| 第3節 | 部門の概念・定義・範囲及び推計方法 | 50 |
| 1 | 内生部門 | 50 |
| 2 | 最終需要部門 | 56 |
| 3 | 粗付加価値部門 | 57 |
| 第4節 | 部門分類表 | 59 |
| 1 | 基本分類と統合分類 | 59 |
| 2 | 平成12年－平成17年産業連関表部門分類対照表 | 68 |
| 3 | 全国産業連関表－山梨県産業連関表部門分類対照表 | 72 |

[第 2 編] 計 数 編

| | | | |
|------------|---------------|--------------------------------------|-----|
| I | | 1 3 部 門 分 類 に よ る 計 数 表 | |
| 1 | 生産者 | 実際価格評価表 | 73 |
| 2 | | 投入係数表 | 75 |
| 3 | | 逆行列係数表 $(I - A)^{-1}$ 型 | 75 |
| 4 | | 逆行列係数表 $[I - (I - \hat{M})A]^{-1}$ 型 | 77 |
| II | | 3 4 部 門 分 類 に よ る 計 数 表 | |
| 1 | 生産者 | 実際価格評価表 | 79 |
| 2 | | 投入係数表 | 85 |
| 3 | | 逆行列係数表 $(I - A)^{-1}$ 型 | 89 |
| 4 | | 逆行列係数表 $[I - (I - \hat{M})A]^{-1}$ 型 | 91 |
| III | | 1 0 3 部 門 分 類 に よ る 計 数 表 | |
| 1 | 生産者 | 実際価格評価表 | 93 |
| 2 | | 投入係数表 | 103 |
| 3 | | 逆行列係数表 $(I - A)^{-1}$ 型 | 111 |
| 4 | | 逆行列係数表 $[I - (I - \hat{M})A]^{-1}$ 型 | 119 |
| 5 | 最終需要項目別 | 生産誘発額 | 127 |
| 6 | 最終需要項目別 | 生産誘発係数 | 128 |
| 7 | 最終需要項目別 | 生産誘発依存度 | 129 |
| 8 | 最終需要項目別 | 粗付加価値誘発額 | 130 |
| 9 | 最終需要項目別 | 粗付加価値誘発係数 | 131 |
| 10 | 最終需要項目別 | 粗付加価値誘発依存度 | 132 |
| 11 | 最終需要項目別 | 移輸入誘発額 | 133 |
| 12 | 最終需要項目別 | 移輸入誘発係数 | 134 |
| 13 | 最終需要項目別 | 移輸入誘発依存度 | 135 |
| 14 | | 移輸入係数 | 136 |
| 15 | | 総合移輸入係数 | 136 |
| 16 | | 総合粗付加価値係数 | 136 |
| IV | | 雇 用 表 | |
| 1 | 1 3 部 門 分 類 | | 137 |
| 2 | 3 4 部 門 分 類 | | 137 |
| 3 | 1 0 3 部 門 分 類 | | 138 |